

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を基本に、地域性、ホームの機能を活かした事業所独自の理念を掲げている。 ○	ゆっくり＝本人のペースに合った生活リズム ゆったり＝くつろげる空間と時間の確保 楽しみながら＝生きがいを見つけ意欲の回復に向けた支援の継続
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所に掲示し、ミーティングやカンファレンスを通して認識を深め、日々の業務の中に徹底させている。 ○	日々の対応や介護計画への反映。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットや利用案内に分かりやすく記載、家族や近隣の方々の来訪時や家族会の開催時等に伝える機会を確保している。 ○	家族、地域の方々が気軽に集まれる場として、今後趣味の講座や勉強会の企画立案を行う
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	閑静な住宅街にあり公園やスーパーに隣接、散歩や買い物、公共施設の利用を通して日常的な付き合いが出来るよう努めている。 ○	ホームをオープンにし、中での暮らしぶりを自然な形で地域の方々に伝えていく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入、祭りや消防訓練に参加し又、地域の作品展等にも作品を出展している。 ○	老人会や地域活動への参加や、活動の場としてホームを提供していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム単独としての取り組みは不十分。	○	地域の方々を対象とした介護者教室、勉強会等、認知症の理解に向けた取り組みを行う
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	定期的な自己評価、外部評価を実施することでより課題が明確となり、具体的な改善に向け職員間での意識の共有が図れている。	○	職員のスキルアップを図り質の確保に努める
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での前年度自己評価、外部評価についての報告や話し合いは実施済み、内容については全職員に周知、会議にて取り組みについての話し合いを行っている。	○	推進会議での話し合いを具体的にするため委員の方々の情報、資源等の活用を図る
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代行申請や訪問調査等家族の代わりに対応することもあり、連携や協力体制は出来ている。	○	市町村で実施している研修会や催しには積極的に参加していく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は、県、市町村、民間団体で主催する研修会に参加、全職員に周知している。	○	今後職員の研修会参加の機会を確保するとともに、ホームでの勉強会に取り入れていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、県、市町村、民間団体で主催する研修会に参加、全職員に周知徹底し、ホーム内での虐待の防止に努めている。	○	今後職員の研修会参加の機会を確保するとともに、ホームでの勉強会に取り入れていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内に分かりやすく記載、契約書、重要事項説明書にて十分な説明の時間を取り理解、納得を得ている。	○	入居後もひき続き気軽に疑問や希望に答えられる時間と関係を確保する
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者との面談を実施し、希望の確認を行う。また、意見箱、苦情受付窓口を設置しいつでも、意見の言える仕組みが出来ている。	○	意見、苦情の表出できない利用者について個々に対応方法を検討し、実践していく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りにて生活状況は報告している。金銭管理についても、毎月出納帳の確認印を頂いている。また、必要に応じケアプランの変更が必要になった場合は、随時報告相談見直しを行っている。	○	毎月の便りの内容の充実を図る
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族との面談を実施し、希望の確認を行う。また、意見箱、苦情受付窓口を設置し、いつでも意見の言える仕組みが出来ている。	○	意見や苦情を外部者へ表わせる機会を確保する
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、責任者会議、ユニット会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	○	全職員が運営に関してきちんと理解し、関われる仕組みを作る
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ホームでの状況に応じた職員配置の調整可能な体制は出来ているし、必要に応じて事業所としてのバックアップ体制も出来ている。	○	有能な職員の確保

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑え、急な交代等で入居者に影響がない様、引継ぎの期間をきちんと確保している。	○	職員の定着率安定に努める
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として事業所定期勉強会、ブロック研修、スキルアップ研修等実施、外部研修においても情報の提供と時間の確保に努めている。	○	より多くの研修参加の機会を確保していく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G H協議会等の研修で情報共有ははかれるも地域での交流の機会は少ない。	○	地域でのネットワーク作り
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会主催の旅行、ゴルフ大会、スキーツアー、忘年会等希望で参加できる。、また職員のメンタル面の相談窓口も設置されている。	○	事業所での職員のための環境整備
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な面談、報告、考課表により個々の職員の実績を評価、やりがいに繋がる環境を整備している。	○	個人目標管理、フォローにより職員一人ひとりの能力を伸ばす環境の整備

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の生活背景、生活動作能力、の聞き取りにより一人ひとりのニーズを把握し不十分なところはカンファレンスの機会を確保し、本人、家族を交えて確認を行っている。	○	初回アセスメントにより課題を抽出、分析することで本人の希望と受け止め、全職員で共有する
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前の生活背景、生活動作能力、の聞き取りにより家族のニーズを把握し不十分なところはカンファレンスの機会を確保し、本人、も交えて確認を行っている。	○	初回アセスメントにより課題を抽出、分析することで家族の思いと希望を受け止め、全職員で共有する
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の把握に努め、広い視野を持って情報の提供に努めている。	○	地域資源と介護保険サービスの理解に努め総合的な支援体制が取れるよう努める
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学も含め入居前に何度か入居者の方々と一緒にお茶や会話を楽しんでいる。	○	徐々に馴染んでいただけるような工夫、受け入れ体制の検討
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自立支援を踏まえ、本人の持っている能力を活かしながら共に生きる姿勢での関わりを心がけている。	○	一緒に過ごす時間をより多く確保するための取り組み

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居後も家族とともに支援していくという姿勢は維持、そのための情報の共有、訪問の機会の確保をおこなっている。	○	家族との関係強化を図る
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を理解把握し、入居後も家族との関わりが維持していけるよう情報の発信を行っていく。	○	継続的な家族関係の維持がはかれよう具体的な働きかけの検討
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り家族や親しい人との交流が継続出来るよう情報を発信し積極的な働きかけを行っている。	○	家族や親しい方がたへの継続的な働きかけ
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の中でお互いに得意なこと苦手なことを助けあえるよう、支援に努めている。	○	共同生活のプラス面を引き出していく
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じ、対応している。	○	継続的な相談援助機能の充実を図る

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	本人の思いを実現するための支援
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	一人ひとりの方が、いままでの生活を継続するために必要な支援について考え実践していく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	有する能力を活かすケアの実践
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	○	関係機関との連携強化
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	現状に即した介護計画の作成

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録、再アセスメントにより状況の確認、共有を、全職員で図っている。	○	情報共有の徹底
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するケアセンターの持っている機能を活かし、柔軟な対応に努めている。	○	事業所機能の活用と連携強化
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用協同を心がけ、日常生活の中での関係構築に努めている	○	地域資源との連携、協同への具体的取り組み
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、希望により対応していきたい。	○	他事業所間の連携強化
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	推進会議の折、相談指導を頂いている。	○	必要に応じて、又、日常的に協同を図って行く

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が主治医としている医療機関との受診がされており、継続的な関係が維持できている。	○	医療機関との連携強化
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域にある専門医院を、受診されている入居者のかたも多く受診の度に家族、医師、職員間での連携が取れている。	○	専門医との関係、連携強化
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在3名の看護職員がおり十分な相談、医療活用の支援が出来ている。	○	地域の看護職員との連携を図る
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院時、医師、看護師、ソーシャルワーカーとの連携を図り情報の共有、指導、相談の出来る関係が出来ている。	○	日常的に医療機関との連携強化を図る
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針の共有は、今後の課題である。現在までそうしたケースはない。	○	ターミナルケアの実践に向けた取り組み
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の課題である。	○	ターミナルケアの実践に向けたチームケアの取り組み

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入退去時、住み替え時等、出来る限りの情報交換を行う機会の確保に努めている。	○	関連機関との協同を図るための仕組みを作る
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権侵害をしないこと、入居者一人ひとりの違いを尊重し、さりげない心のこもった言葉かけや対応を心がけている。個人情報の取り扱いについては、保護管理規定を定め、全職員に周知徹底している。	○	個人情報、人権尊重を遵守したケアの実践
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が感情表現できるよう指示や強制ではなく、伺う姿勢で自己決定出来るよう余裕のある言葉かけや雰囲気作りをしている。	○	自己決定できる場面を出来るだけ多く確保する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく、入居者のペースに合わせた生活の流れを心がけている。	○	一日一日、柔軟に個人のペースに合った流れに対応する
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に合った髪型や服装が出来るよう支援している。家族の協力もあり、カットは美容師さんに来てもらったり、馴染みの美容院へ出掛けパーマをかけたりしている。	○	個性を尊重したおしゃれの支援

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や、盛り付け、配膳等、役割分担をしながら一緒に準備や片付けを行っている。	○	食事の楽しめる雰囲気作りと食思を保つ支援
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の嗜好は周りの方々に迷惑のかからないよう配慮し、出来るだけ対応している。状況により、自室での対応をお願いしている場合もある。	○	習慣としている嗜好の継続支援
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録により排泄パターンを把握し、個人の排泄のリズムに合わせた声かけトイレ誘導を行っている。	○	排泄パターンに応じた個別の排泄支援の実践
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望の確認をしながら時間に追われない入浴を行っている。	○	入浴時の不安や羞恥心等に配慮し、一人ひとりの希望に合わせた入浴の実践
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	気づきを大切に、個別の状況に応じた関わりを心がけ一日のリズムを整え、睡眠のパターンが乱れないよう支援している。	○	規則正しい睡眠パターンを確保し、一日のリズムを保つ
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	規則に縛られるのではなく、役割提供、持っている力を活かすことで自信を取り戻し、楽しめる暮らしが出来るよう支援している。	○	やすらぎのある自由な暮らしの実現

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の力量に応じ通常は事務所預かりとし、買い物等必要な場合には、本人が行えるよう支援している。	○	希望や力量に応じた金銭管理の実践
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天気に応じ散歩や買い物に出掛けている。	○	気軽に外出できる機会の確保
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望の確認により、ドライブ、公共施設、食事等出かけられる機会を確保する努力をしている。	○	旅行や観劇等の支援
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも事務所の電話は使用可能であり手紙やはがきのやり取りは行えるよう支援している。	○	手紙や電話の利用の奨励支援
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の訪問はいつでも受け入れており、居室で過ごされる家族やリビングで他の入居者と一緒に過ごされる家族もおり職員との信頼関係は出来ている。	○	家族が気軽に訪問できる雰囲気を維持する
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルにより、全職員身体拘束をしないケアを徹底している。	○	身体拘束をしないケアの実践

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関には鍵をかけていない。居室の扉も鍵がかけられるような作りになっているが今まで鍵を使用したことは一度もない。	○	鍵をかけない安定した自由な暮らしの支援
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常にフロアに出ているよう心がけており、職員間でのポジショニングの連携も取れている。	○	入居者の状況の把握できるポジショニングの確保
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類や薬等危険な物品は鍵の掛かる戸棚や届かない場所に保管し、職員管理としている。	○	一人ひとりの能力に応じた保管方法の検討
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故のリスクを減らすための環境の整備と勉強会は実施している。又、ヒヤリ、ハット報告書の記入により大きな事故に至らぬよう努めている。	○	事故防止のための研修の実施
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	基本的な応急処置については、認識している。緊急時対応マニュアルを作成し全職員に周知徹底させている。	○	定期的研修の実施
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施。地域の方々との連携を今後図っていきたい。	○	地域における災害対策の構築

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	アセスメントにより起こり得るリスクについては家族等に説明、随時状況の変化により起こり得る事故の対策は、カンファレンスの折検討している。	○	リスクマネジメントの理解
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人の既往症、現病歴については、全職員が把握し、身体状況の変化や異常の早期発見に努めている。又記録に残すことは徹底している。	○	疾病の重度化や入院を防ぐ取り組み
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方内容を把握し、主治医の指導のもと服薬管理を行っている。処方箋はファイルに整理しいつでも確認出来るようにしてある。	○	医師の指導に基づいた服薬管理の支援
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個別に牛乳や繊維質の食物をとったり全員で体操をするなど便秘予防に取り組んでいる。	○	規則正しい排便リズムの維持
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施、歯の痛みや義歯の不都合が生じた場合は随時歯科医院受診を行う。	○	個人の方法に合わせ口腔内の清潔を日常的に支援する
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養のバランス、カロリーを調整している。摂取量は毎食記録し、個別の摂取状況を把握している。	○	個別の栄養摂取状況の把握

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成、全職員周知徹底している。	○	継続的な感染症予防の取り組み
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品の殺菌消毒、手指消毒、食材の保管等ホーム内の衛生管理の徹底に努めている。	○	衛生安全管理の徹底
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の両サイドに季節の草花が楽しめるよう花壇を配置、違和感や威圧感を感じさせない雰囲気作りに配慮している。	○	気軽に入れる家庭的な玄関周りの工夫整備
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調度や設備は家庭的であり、手作りの物を飾ったり、天候、時間による光の調節や、テレビや職員の会話のトーンにも配慮している。	○	共用スペースの整備
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に対応できるスペースは確保していないが状況に応じて、相談室等を活用している。	○	共用空間における居場所の確保

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や馴染みの物は自由に持ち込めるようになっている。カーテンも好みの柄で、個性的な演出が可能となっている。	○	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境整備
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有部分の管理のほか、居室においても本人の身体状況により適宜適切に行っている。	○	適切な換気、温度調節の継続実施
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリー、随所に手摺りを設置、床材は滑りにくいものを使用し、居室には個別に分かりやすさに配慮した表札をつけトイレの表示は分かりやすい工夫をしている。	○	自立支援に基づいた環境の整備
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を招かぬよう原因の排除や環境整備に努めている。	○	心身の状態に合わせた生活環境の整備
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには物干し場を設置、中庭には園芸を楽しむスペースも確保、入居者が楽しみや張り合いを持って生活できる環境を整えている。	○	入居者が楽しんで活動できる外回りの整備

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設者の思いでもある「共に生きる」の意味を全職員が真剣に受け止め日々の業務に活かしている。ホームは、閑静な住宅街にあり、公園に隣接、大型スーパー、保育園や病院も近く、大変恵まれた環境に立地しており、職員は入居者の方々が、地域の中で暮らしているという実感を、出来るだけ多く感じていただけるような取り組みを実践している。現在入居されている方々は、日々の暮らしの中で得意なことを活かしながら、助け合い安定した生活を送っている。